

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成25年8月22日 (2013.8.22)

【公表番号】特表2012-533614(P2012-533614A)

【公表日】平成24年12月27日 (2012.12.27)

【年通号数】公開・登録公報2012-055

【出願番号】特願2012-521116(P2012-521116)

【国際特許分類】

A 6 1 K 33/38 (2006.01)

A 6 1 K 9/10 (2006.01)

A 6 1 K 47/44 (2006.01)

A 6 1 K 9/06 (2006.01)

A 6 1 K 9/08 (2006.01)

A 6 1 P 17/00 (2006.01)

A 6 1 P 31/02 (2006.01)

A 6 1 P 31/04 (2006.01)

A 6 1 K 47/02 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 33/38

A 6 1 K 9/10

A 6 1 K 47/44

A 6 1 K 9/06

A 6 1 K 9/08

A 6 1 P 17/00 1 0 1

A 6 1 P 31/02

A 6 1 P 31/04

A 6 1 K 47/02

【手続補正書】

【提出日】平成25年7月5日 (2013.7.5)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

露出した身体組織への塗布用局所製剤であって、前記製剤は酸化銀 (I I) および酸化亜鉛を含み、前記酸化銀 (I I) および前記酸化亜鉛は担体媒質内で親密に分散し、

前記酸化銀 (I I) に対する前記酸化亜鉛の比は、重量比で少なくとも 0 . 5 : 1、少なくとも 1 : 1、少なくとも 2 : 1、少なくとも 3 : 1、または少なくとも 4 : 1 である、局所製剤。

【請求項 2】

前記製剤は少なくとも 0 . 0 5 重量 % の酸化銀 (I I) および、少なくとも 0 . 0 5 重量 % の酸化亜鉛を含む、請求項 1 に記載の局所製剤。

【請求項 3】

前記製剤は 2 5 重量 % 未満、2 0 重量 % 未満、1 5 重量 % 未満、1 2 重量 % 未満、または 1 0 重量 % 未満の酸化亜鉛を含む、請求項 1 または 2 に記載の局所製剤。

【請求項 4】

前記酸化銀(ⅠⅠ)に対する前記酸化亜鉛の前記重量比が100:1未満、50:1未満、20:1未満、12:1未満、10:1未満または8:1未満である、請求項1~3のいずれか1項に記載の局所製剤。

【請求項5】

前記担体媒質が、液体蠟エステルをさらに含む、請求項1から4のいずれか1項に記載の局所製剤。

【請求項6】

前記酸化銀(ⅠⅠ)および酸化亜鉛は選択され、前記酸化銀(ⅠⅠ)および酸化亜鉛は前記担体媒質内に分散し、そこで前記製剤の白色度は式：

$$L^* = (L_0^*) + 2$$

を満たし、 L_0^* は、前記酸化亜鉛抜きの前記製剤の基準白色度値であり、 L^* は前記酸化亜鉛を含む前記製剤の白色度値である、請求項1~5のいずれか1項に記載の局所製剤。

【請求項7】

前記酸化銀(ⅠⅠ)、前記酸化亜鉛および前記担体媒質は選択され、前記酸化銀(ⅠⅠ)および前記酸化亜鉛は前記担体媒質内に分散し、前記製剤の前記白色度値 L^* は少なくとも75、少なくとも78、少なくとも80、または少なくとも82または少なくとも84である、請求項6に記載の局所製剤。

【請求項8】

前記酸化銀(ⅠⅠ)の含有量は少なくとも約0.5重量%であり、前記酸化銀(ⅠⅠ)、前記酸化亜鉛および前記担体媒質は選択され、前記酸化銀(ⅠⅠ)および前記酸化亜鉛は前記担体媒質内に分散し、そこで、前記製剤の白色度値 L^* は少なくとも80、少なくとも82または少なくとも84である、請求項1~5のいずれか1項に記載の局所製剤。